

東証スタンダード市場・福証
証券コード：6998

決算補足説明資料

2026年3月期（2025年度） 第1四半期決算概要

2025年8月7日



はじめに

当社商品の概要

2026年3月期（2025年度）第1四半期業績概要

1. 今回発表のサマリー
2. 連結業績の概要
3. 主な経営指標
4. セグメント別の状況
5. 財務の状況（連結）
6. 今後の見通し

参考資料

1. 業績の推移（連結）
2. 配当金の推移

当社商品の概要

「粉末冶金技術」を駆使し、タングステン製品を軸に多様な特性を持つ商品を展開

1930年代

1950年代

1970年代

2000年～

粉末冶金技術

多様な特性を持つ商品を展開

タングステンに銅や銀を組み合わせ、**通電性や耐アーク性を備えた合金**を開発

熱に強いタングステンの特徴を用いた電球フィラメントが、当社の出発点

電気・電子製品

(タングステン製品)



ブレーカー用電気接点

金属材料製品

(タングステン製品)



電球用タングステンワイヤー製品

タングステンカーバイドとコバルト等を組み合わせ、**耐摩耗性や耐腐食性に優れた合金**を開発

超硬合金製品

(タングステンカーバイド合金)

セラミックス製品

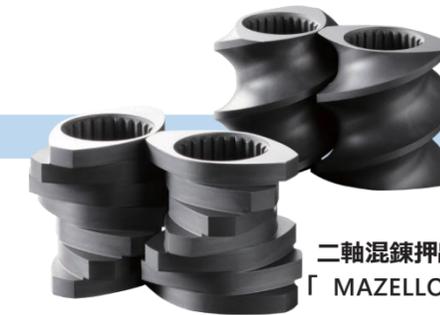
(セラミックス材料)



ハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板



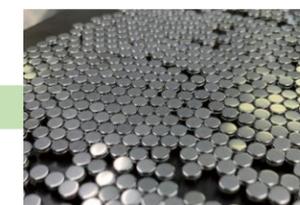
NTダイカッター



二軸混練押出機用部材「MAZELLOY®」



プラズマ電極



EVリレー用接点



抵抗溶接用電極



医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品

機械部品事業 (他の商品)

耐摩耐食部品
セラミックス精密加工品
ウルトラファインバブル関連製品

産業用設備向け耐摩耗部材 液晶塗付用超硬長尺製品 超硬精密加工品

電機部品事業 (他の商品)

放射線遮蔽材料
バルンサー用錘
その他電極製品

コピー機や空気清浄機の放電線
自動車のホーン用接点

暮らしを支える様々な場面で使用される当社の製品

■ 半導体・電子部品市場

サーバーなどのハードディスクドライブの読み取り装置を支える基板や、「産業のコメ」といわれ、電子デバイスの基本材料となる半導体にも、その製造過程で当社の製品が使われています。



■ 衛生用品機器・医療用部品市場

カテーテル用のブレイディングチューブや電気手術用電極など、医療分野でも当社の製品が使われています。



皆様の健やかな生活を支える衛生用品の製造工程でも、当社の製品が使われています。



■ 自動車部品市場

先端技術を駆使した自動車の部品や、製造工程にも当社の製品が使われています。

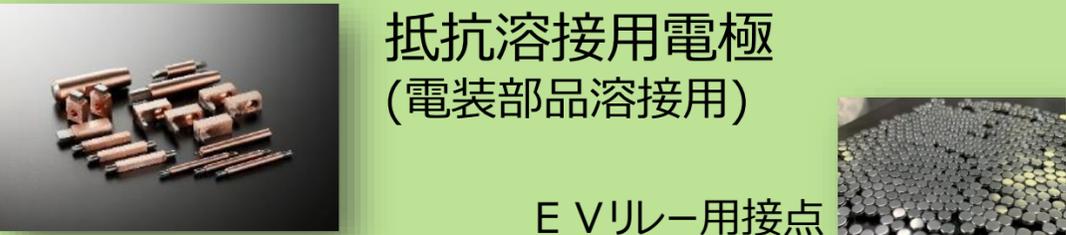
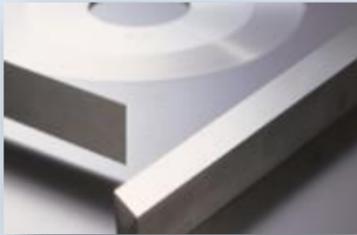


■ 産業用機器・部品市場

より効率的な生産への改善や、安全面、環境面への管理に対し、信頼性の高い部品が求められています。高品質な材料を活かし、当社の様々な製品がこの分野でも活躍しています。



4つのターゲット市場に、粉末冶金技術を生かした素材・商品群を提供

ターゲット市場	事業セグメント	
	機械部品事業	電機部品事業
半導体・電子部品市場	 <p>ハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板 世界 No.1 シェア(当社調べ)</p>	 <p>プラズマ電極 給電端子部品</p>
自動車部品市場	 <p>二軸混錬押出機用部材 「MAZELLOY®」 新商品 (コンパウンド混錬機用)</p>	 <p>抵抗溶接用電極 (電装部品溶接用) EVリレー用接点</p>
産業用機器・部品市場	 <p>産業用設備向け耐摩耗部材 液晶塗付用超硬長尺製品</p>	 <p>ブレーカー用電気接点</p>
衛生用品機器 ・医療用部品市場	 <p>NTダイカッター 国内No.1・世界No.2シェア(当社調べ) 新素材を開発</p>	 <p>医療関連カテーテル用 タングステンワイヤー製品</p>

2026年3月期（2025年度） 第1四半期 業績概要

1. 今回発表のサマリー

2026年3月期（2025年度）第1四半期決算の総括

・第1四半期の業績は、連結は、前年同四半期比で減収減益。個別は、前年同四半期比で増収減益

経済環境

・企業の設備投資の回復や、雇用・所得環境の改善が継続しているが、物価上昇による消費の下押しや、米国の関税政策及びウクライナ・中東での地政学リスクの継続による不確実性の高まり等により、先行きは依然として不透明な状況が続く中で推移。

ターゲット市場の概況

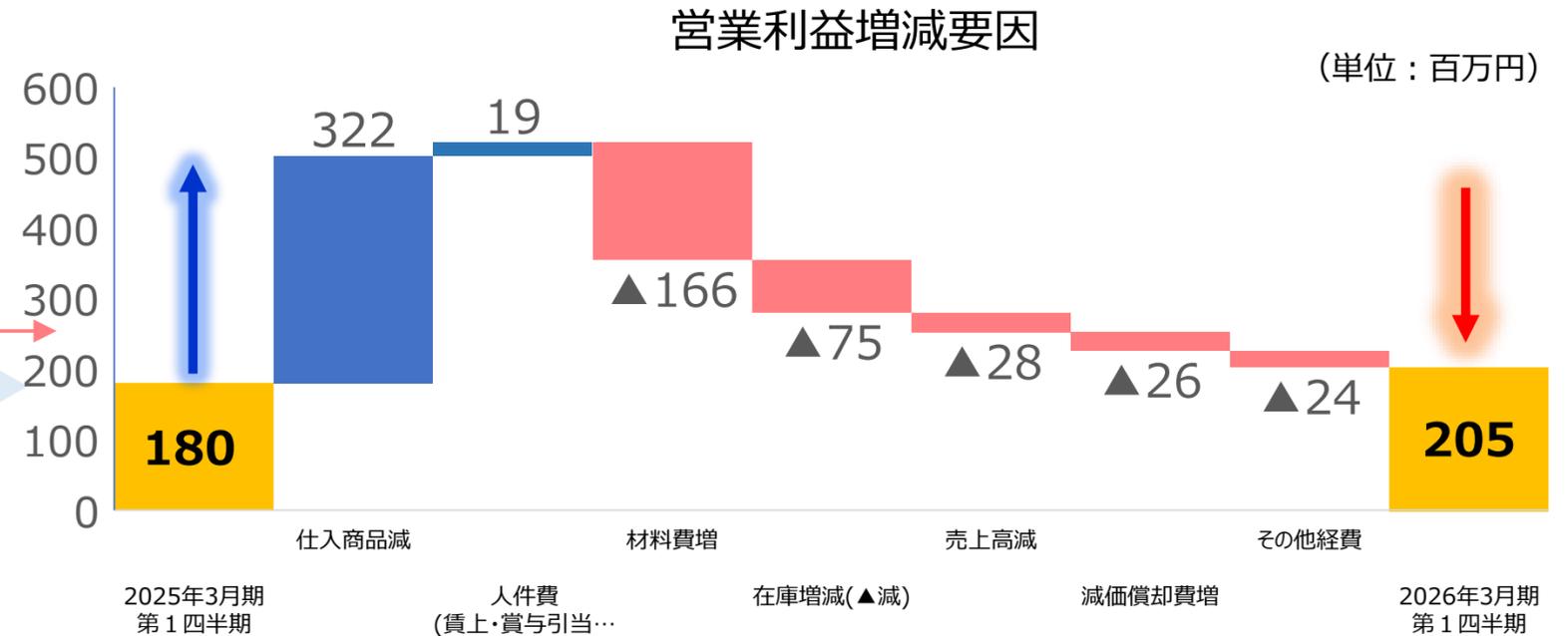
- ・衛生用品機器・医療用部品市場 : 主に医療用途の分野が好調に推移。
- ・半導体・電子部品市場 : データセンター等で使用される大容量ハードディスクドライブ（HDD）の需要が堅調に推移したほか、半導体関連の需要に支えられ、好調に推移。
- ・自動車部品市場 : 顧客の生産部材や使用製品仕様の変更の動き等もあり、伸び悩む中で推移。
- ・産業用機器・部品市場 : 前連結会計年度までのまとまった需要の一服等もあり、低調に推移。

今後の見通し

- ・今後の見通し
 - ・日本や欧米各国の経済は緩やかながらも成長が見込まれるが、米国の関税措置が実行に移される中で、景気減速への懸念等、先行きの不透明感はより一層高まる中で推移するものと思われる。
 - ・衛生用品機器・医療用部品市場の一部商品において米国への直接輸出があるが、現時点では米国の関税措置に伴う減収は見込まない。
 - ・自動車部品市場では、顧客を経由した米国向けの販売等も一定数あり、今後の動向を注視。
 - ・半導体・電子部品市場は堅調に推移するものと見込む。
 - ・産業用機器・部品市場は、伸び悩む中で推移するものと見込む。
 - ・中国の輸出規制の対象拡大により、原材料であるタングステンにおいて、中国からの輸出に時間を要する状況。当社グループでは、一定の在庫を確保しており、直ちに生産に影響を及ぼすことはないが、他の仕入先からの調達、在庫のさらなる備蓄、リサイクル粉末の活用の検討等、継続的な生産に向け注力。
- ・業績、配当金予想
 - ・当第1四半期の業績は、当初想定通りに進捗しており、また、当第2四半期の業績予想は、米国の関税措置の影響を織り込んではいないものの、現時点では想定通りに進捗するものと見込む。
 - ・2025年5月14日に公表した、2026年3月期第2四半期及び通期の連結及び個別業績予想値並びに配当金予想に変更はなし。

2. 連結業績の概要

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	(単位：百万円) 対前年比	
			増減額	増減率
売上高	3,181	3,134	△47	△1.5
営業利益	180	205	25	14.2
経常利益	284	268	△16	△5.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	187	181	△5	△3.0



連結売上高	31億3千4百万円 (前年同四半期比△1.5%減)	<p>機械部品事業の減収により、連結売上高は減収。 (機械部品事業) ・注力商品であるHDD用磁気ヘッド基板や、NTダイカッターは堅調に推移したものの、二軸混練押出機用の金属部品の需要が一服したことにより、減収。 (電機部品事業) ・注力商品である医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品が好調に推移したほか、半導体関連の設備投資需要を受け、半導体製造装置に用いられる部品の需要拡大もあり、好調に推移。</p>
営業利益	2億5百万円 (同 14.2%増)	<p>・原材料価格の上昇等の利益圧迫要因があったものの、電機部品事業の増収により、収益性が回復したことや、仕入販売品の減少に伴い、売上高に占める自社製造品の構成割合が高くなったこと等から原価率が良化し、増益。</p>
経常利益	2億6千8百万円 (同 △5.6%減)	<p>・為替が円高局面にシフトする中で、前連結会計年度の為替差益の計上から当連結会計年度は為替差損を計上したこと等により、減益。</p>
親会社株主に 帰属する四半期 純利益	1億8千1百万円 (同 △3.0%減)	<p>・経常利益の減少等により、減益。</p>

3. 主な経営指標

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期
売上高営業利益率 (%)	7.3	9.6	5.3	5.7	↑ 6.6
自己資本四半期純利益率 (ROE・%)	2.2	2.8	1.6	1.6	→ 1.5
総資産経常利益率 (ROA・%)	1.8	2.6	1.5	1.6	→ 1.5
1株当り四半期純利益 (円)	45.45	60.45	36.79	38.62	→ 37.41

➤ 各指標は、前年同四半期と比較し、売上高営業利益率は上昇

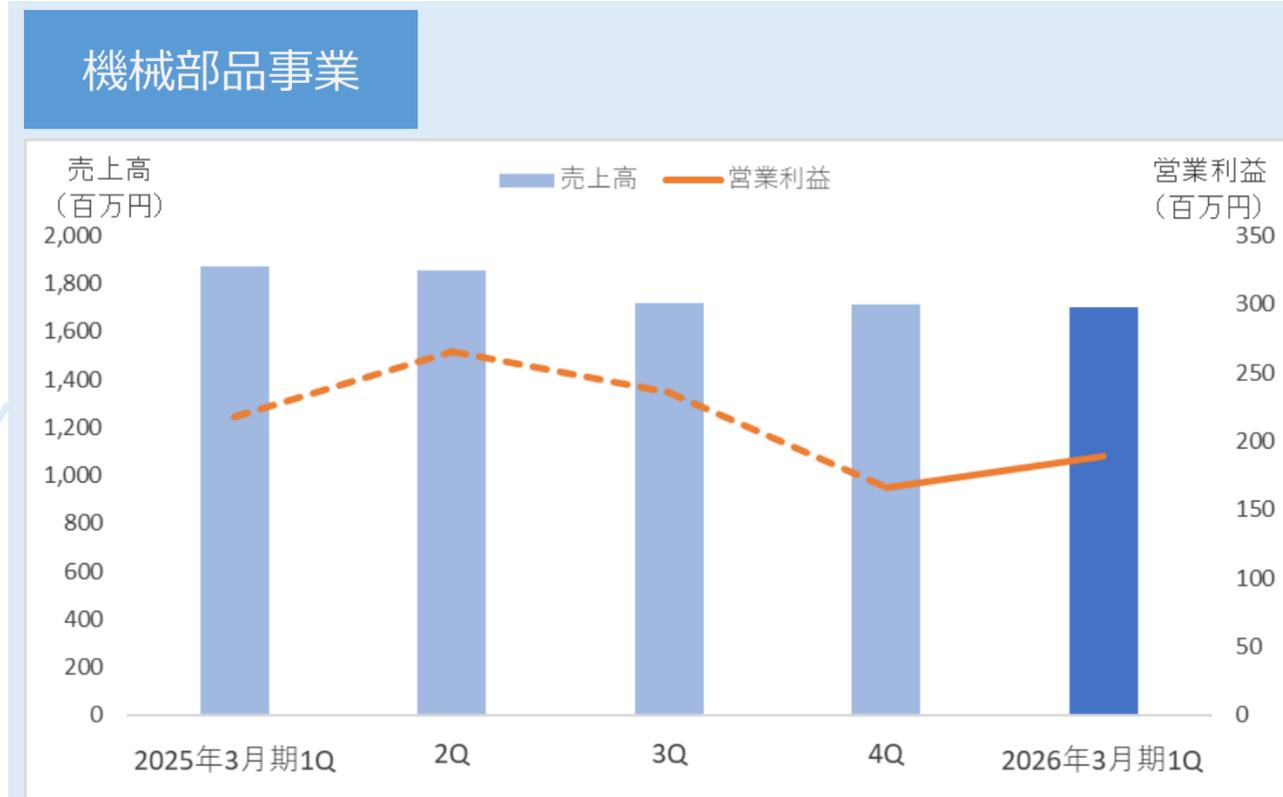
(注) 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2022年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

4. セグメント別の状況

■ セグメント業績の概要

(単位：百万円)

		2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	対前年比	
				増減額	増減率 (%)
機械部品事業	売上高	1,869	1,702	△166	△8.9
	営業利益	217	188	△29	△13.4
電機部品事業	売上高	1,325	1,436	110	8.3
	営業利益	112	159	46	41.7
調整額	売上高	△13	△4	8	-
	営業利益	△150	△142	7	△5.3
全社	売上高	3,181	3,134	△47	△1.5
	営業利益	180	205	25	14.2



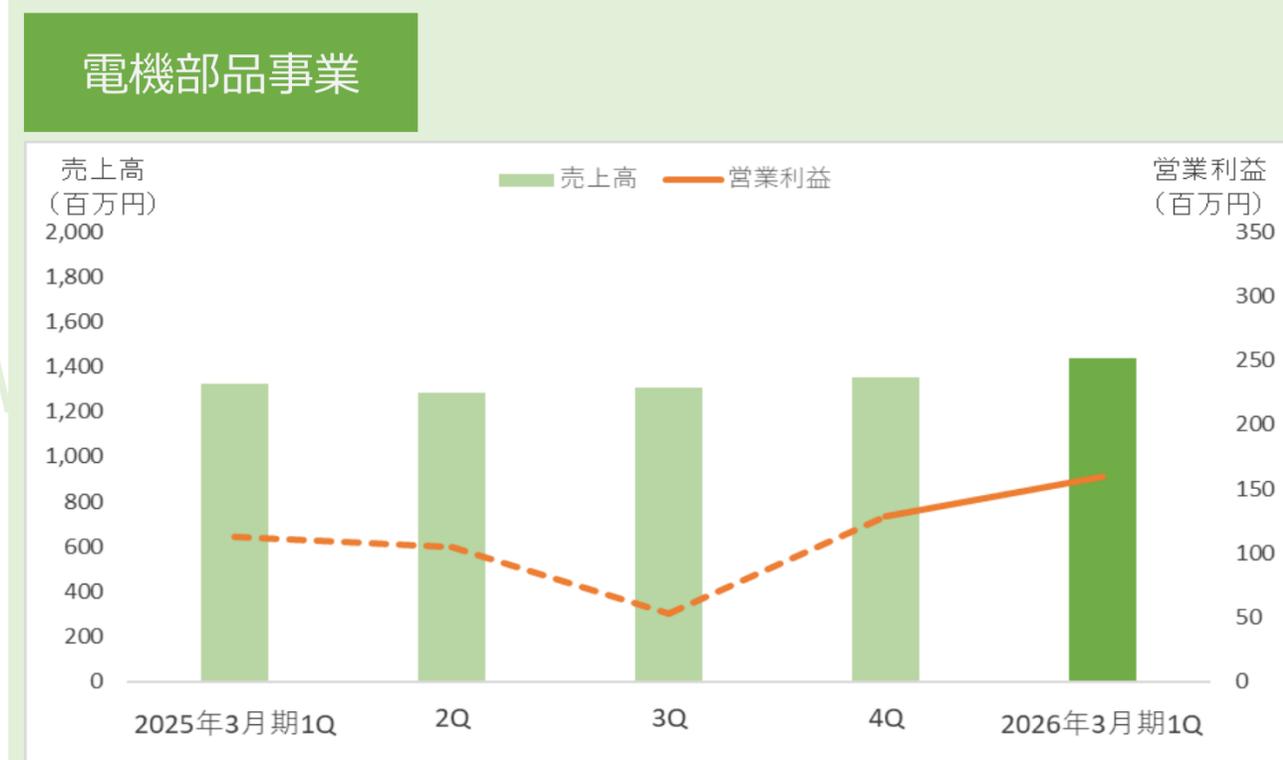
	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期
売上構成比	58.5%	54.3%
営業利益率	11.7%	11.1%

前年同四半期比

- ・売上高は、8.9%の減収
- ・営業利益は、13.4%の減益

四半期推移

- ・売上高は、前連結会計年度第3四半期から17億円台で推移しており、営業利益も低位。



	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期
売上構成比	41.5%	45.7%
営業利益率	8.5%	11.1%

前年同四半期比

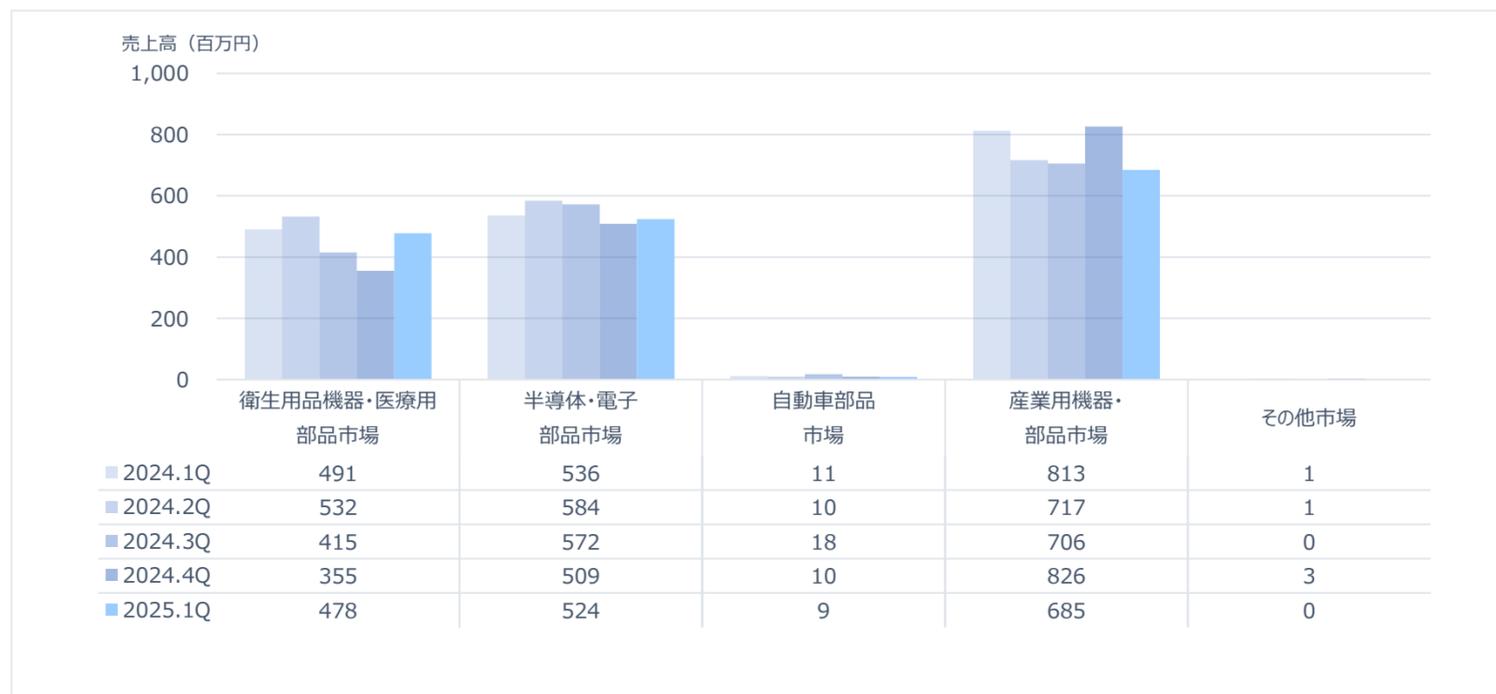
- ・売上高は、8.3%の増収
- ・営業利益は、41.7%の増益

四半期推移

- ・売上高は、上昇基調で推移し、営業利益率も上昇

4. セグメント別の状況

■ ターゲット市場別業績・主要商品の状況



NTダイカッター



HDD用
磁気ヘッド基板



二軸混練押出
機用の金属部品

ターゲット市場の主要な商品の状況 (前年同四半期比)

■ 衛生用品機器・医療用部品市場

NTダイカッター

顧客の新規設備投資の需要増や、新構造ユニットの拡販等により堅調に推移したものの、前年同四半期に好調だったヨーロッパ向けの販売の反動減等もあり、減収。

■ 半導体・電子部品市場

情報関連機器のハードディスクドライブ (HDD) 用磁気ヘッド基板

データセンター等で使用される大容量HDDの需要が堅調に推移しており、増収。

■ 産業用機器・部品市場

製鉄所向けの耐摩耗部材

競合品と比べ耐久性の面で評価を得ており、増収。

二軸混練押出機用の金属部品

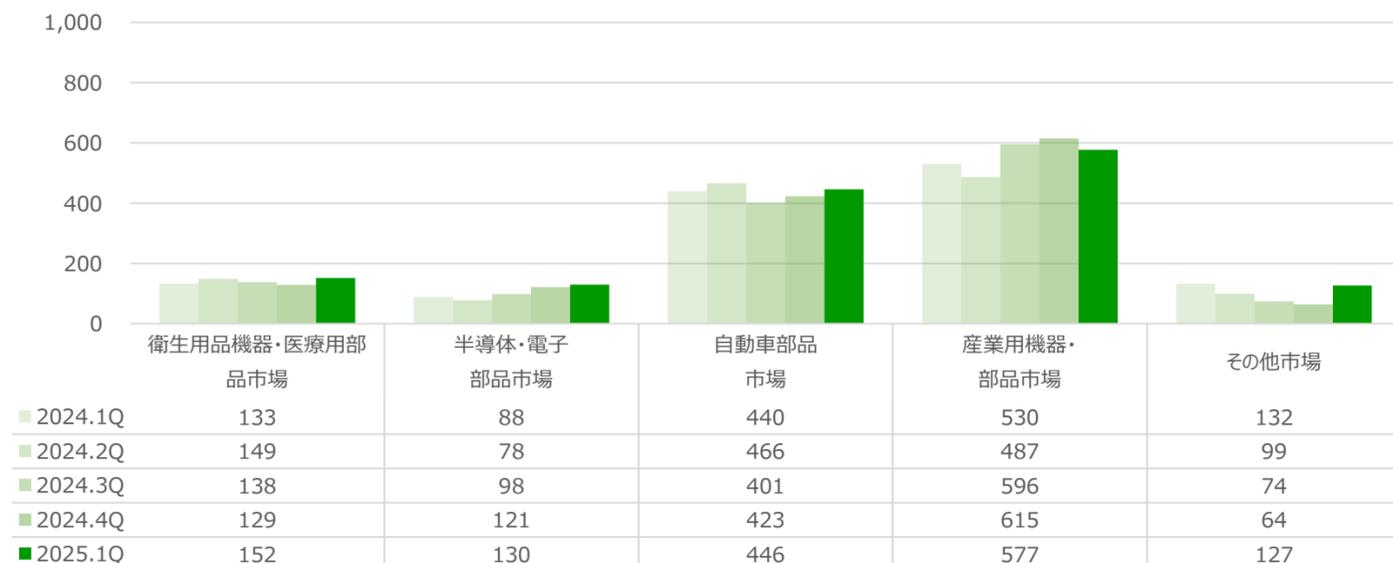
顧客での評価が進んでいるものの、前連結会計年度までのまとまった需要が一服したこと等により、大幅な減収。

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

4. セグメント別の状況

電機部品事業

売上高 (百万円)



医療関連カテーテル用
タングステンワイヤー製品

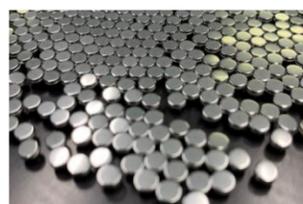
半導体製造
装置に用いら
れる給電端子
部品



抵抗溶接用電極



ブレーカー用
電気接点



EVリレー用接点

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

ターゲット市場の主要な商品の状況 (前年同四半期比)

■ 衛生用品機器・医療用部品市場

医療関連部材のカテーテル用タングステンワイヤー製品

北米地域向けでは需要増に加え、価格改定の効果もあり増収。また、東南アジア向けでは在庫調整の回復局面にあり、増収。

■ 半導体・電子部品市場

半導体製造装置に用いられる給電端子部品

半導体製造装置に用いられる給電端子部品が、半導体製造装置の設備投資需要の増加に伴い、増収。

■ 自動車部品市場

電装部品溶接用の抵抗溶接用電極

中国市場の低迷によるエンドユーザーの電極需要の減少等もあり、減収。

EVリレー用接点

米国市場の需要低迷や、顧客の他材種への仕様変更の動き等もあり減少傾向にあるものの、一部まとまった需要があり、低調ながらも増収。

■ 産業用機器・部品市場

産業用設備向けのブレーカー用電気接点

造船市場の活況による需要増や、原材料価格の上昇に伴う売価への転嫁も進んだこと等により、増収。

5. 財務の状況（連結）

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期 第1四半期	対前年比 増減額
総資産	17,633	17,762	128
負債	5,070	5,196	126
純資産	12,563	12,565	1

主な経営指標

	2025年3月期	2026年3月期 第1四半期
自己資本比率 (%)	71.2	70.7
1株当たり純資産 (円)	2,588.46	2,588.80

	主な増加要因 (単位:百万円)	主な減少要因 (単位:百万円)
総資産 177億6千2百万円 (前連結会計年度末比1億2千8百万円増)	売上債権 + 32 現金及び預金 + 280	有形固定資産 △102 流動資産その他 △ 77
負債 51億9千6百万円 (同1億2千6百万円増)	流動負債その他 + 602	賞与引当金 △188 仕入債務 △133 未払法人税等 △128
純資産 125億6千5百万円 (同1百万円増)	利益剰余金 + 60	為替換算調整勘定 △ 53

6. 今後の見通し

経済環境の見通し

・日本や欧米各国の経済は緩やかながらも成長が見込まれるが、米国の関税措置が実行に移される中で、景気減速への懸念等、先行きの不透明感はより一層高まる中で推移するものと思われる。

当社グループの見通し

- ・衛生用品機器・医療用部品市場 : 一部商品において米国への直接輸出があるが、現時点では米国の関税措置に伴う減収は見込まない。
- ・自動車部品市場 : 顧客を経由した米国向けの販売等も一定数あり、今後の動向を注視。
- ・半導体・電子部品市場 : 堅調に推移するものと見込む。
- ・産業用機器・部品市場 : 伸び悩む中で推移するものと見込む。
- ・中国の輸出規制の対象拡大により、原材料であるタングステンにおいて、中国からの輸出に時間を要する状況。当社グループでは、一定の在庫を確保しており、直ちに生産に影響を及ぼすことはないが、他の仕入先からの調達、在庫のさらなる備蓄、リサイクル粉末の活用の検討等、継続的な生産に向け注力。

業績、配当金予想

- ・当第1四半期の業績は、当初想定通りに進捗しており、また、当第2四半期の業績予想は、米国の関税措置の影響を織り込んでいないものの、現時点では想定通りに進捗するものと見込む。
- ・2025年5月14日に公表した、2026年3月期第2四半期及び通期の連結及び個別業績予想値並びに配当金予想に変更はなし。

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

連結業績予想	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	年間配当金			配当性向(連結)	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	第2四半期末	期末	合計		
第2四半期(累計)	6,200	△1.7	340	△14.4	460	△12.1	320	△9.8	65.98	2026年3月期(予想)	25円	25円	50円	43.2%
通期	12,800	3.3	700	1.6	960	0.8	700	3.4	144.33					



参考資料

1. 業績の推移（連結）

経営成績（連結）

（単位：百万円）

区分	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期
売上高	2,883	3,330	2,882	3,181	3,134
営業利益	209	320	151	180	205
経常利益	281	423	264	284	268
親会社株主に帰属する四半期純利益	218	291	177	187	181
純資産	10,140	10,945	11,425	12,268	12,565
総資産	15,405	17,105	17,341	17,587	17,762

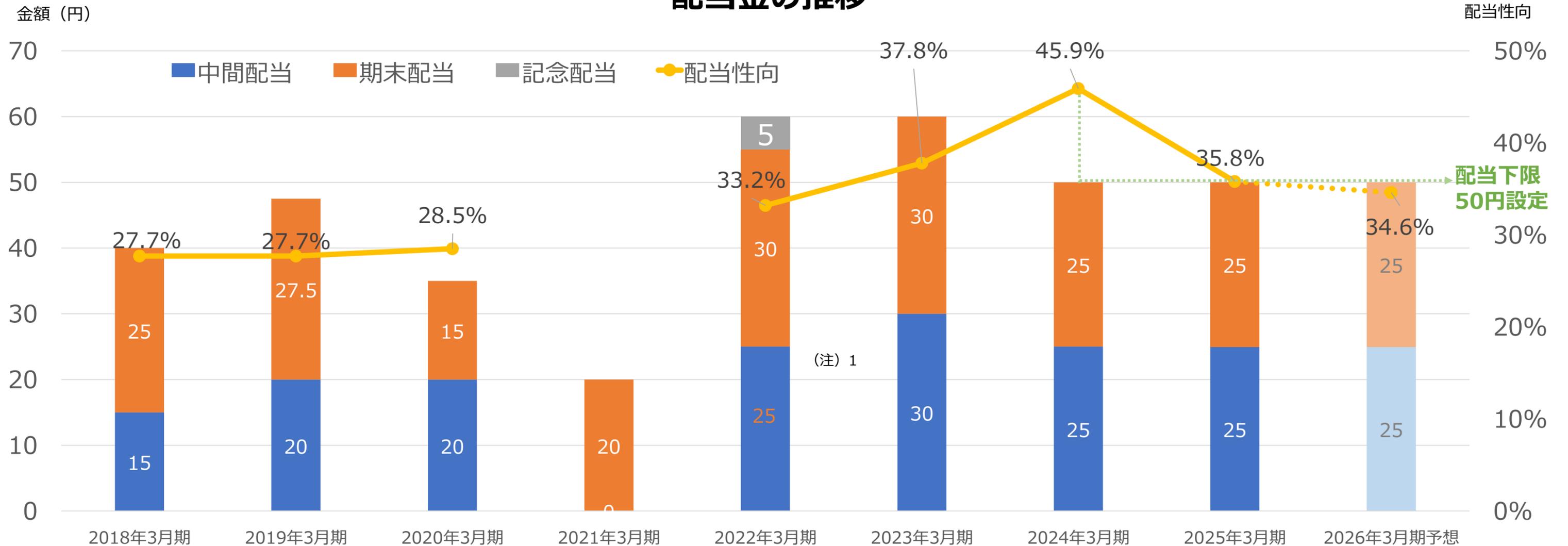
経営指標（連結）

区分	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期
売上高営業利益率 (%)	7.3	9.6	5.3	5.7	6.6
自己資本比率 (%)	65.7	63.9	65.8	69.7	70.7
1株当たり純資産 (BPS) (円)	2,102.94	2,264.84	2,360.19	2,530.87	2,588.80

2. 配当金の推移

■ 株主の皆様へ当社の利益還元姿勢をこれまで以上に明確にするため、2024年3月期より、年間の1株当たり配当金額に50円の下限を設定しました。今後も安定的・継続的な株主還元を努めてまいります。

配当金の推移



(注) 1 2021年3月期は当期純損失であったため配当性向は該当ありません。

2 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2018年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、配当金額を算定しております。

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。